

刊行にあたって

本書の刊行を担当した東洋大学創立一〇〇周年記念論文集編集委員会第一部会は、井上円了の研究者によって構成されている。そして、井上円了研究会第一部会の大鹿実秋・清水 乞、第三部会の飯島宗享・高木宏夫・針生清人、「井上円了の書」研究会の神作光一、以上六教授が委員となり、昭和六十年三月に第一回委員会を開き、同年四月の第二回委員会において、第三部会の三浦節夫研究員に実務担当を依頼し、編集の仕事を軌道にのせることができた。

『井上円了選集』は、編集委員会において、(一)選集の刊行を重ねて将来は全集とする、(二)哲学館にふさわしく哲学関係論文を収録する、ということが望まれていたが、第一部会においてもこの件は確認された。そこで、第一巻は哲学に関する学術論文、第二巻は哲学を大衆化した著作、第三巻は哲学的な宗教に関する論文、を収録することにした。しかし、このあと編集方針の決定には意外に多くの難問があつて時間がかかった。委員会の発足当初は、写真製版による復刻本の出版が予定されていて、井上円了の論文の選択だけが仕事と考えられていた。ところが、「それでは専門家以外は読めないで、現代表記の本を作つて欲しい」という要望が多くの関係者から寄せられるようになって、再検討の結果、現代表記化した本の出版を決定した。

表記にあたって、ある程度の原則を決定すれば、ワープロで自動的に現代表記化ができるから、それを電算写植機に入力すればよいということで、原典を現代表記化した本を集めて検討したところ、例外の連続といつても

よほど面倒なものであることがわかった。この選集の第三巻に収録した『真理金針』と『仏教活論序論』は、仏教書としては木版から活版に変わったばかりの本なので、「解説」に説明したように、本文の句読点がなく、変体がなると同一文字の字体が異なっていたり、同じ行のなかで漢字の送りがながちがっていたり、濁点が有ったり無かったりしているばかりでなく、現代人にはほとんどわからない読みかたがあった。そこで、本選集では読みやすくすることを重視して、「凡例」に記したようにならかなり徹底した現代表記化を行った。したがって、原文の味を知りたい方はぜひ原典を参照されたい。

第一部会は二年半の短い期間に、予想もできない不幸を経験した。昭和六十一年九月には印度哲学科の大鹿実秋教授が、六十二年四月には哲学科の飯島宗享教授が亡くなられたのである。しかし不幸中の幸いは、著書の選択や編集方針の決定段階では、お二人からご意見を十分いただいていたことである。現代表記に関して飯島教授は、徹底してわかりやすくする方がよいというご意見であった。この点はかなり実現されたものと考えている。

このような事情にもかかわらず本書を刊行することができたのは、資料収集・整理や現代表記の作業などにはとんど専従的に携わった三浦節夫研究員をはじめとして、それを手伝った学生、付属図書館および関係事務の方々がた、特に漢詩の読み方や表記についてのご指導と仕事をお引き受けいただいた阿部正次郎教授と中国哲学文学科の諸先生など、多くの人びとの熱意の結果があったからであり、記して謝辞としたい。

昭和六十二年十月